

報告

「ジョナサン・フォアマン賞受賞」

(臨床環境5:90~91,1996)

ジョナサン・フォアマン賞授賞式に参加して

—第31回アメリカ環境医学会総会—

難波 龍人

北里大学医学部眼科

石川哲医学部長がAmerican Academy of Environmental Medicineよりジョナサン・フォアマン賞を受賞され、私も授賞式に出席するためにボストンで開かれたアメリカ環境医学会総会に参加した。この賞は毎回環境医学に功労があった人に贈られるもので今回で29人目の受賞となりもちろん日本人としては初めての受賞となる。



受賞される石川医学部長
(右隣はウィリアム・レイ先生)

学会、授賞式が開催されたボストンをご存知のように東海岸にあり、ニューヨークからさらに東へ小さなプロペラ機で1時間足らずのところにあ

る。街の雰囲気はイギリスやフランスなどのヨーロッパの街に近く、落ち着いている。ハーバード大学やマサチューセッツ工科大学、音楽院、ボストン美術館、ボストン交響楽団など教育と芸術の街でもあり、英国風の臭いが濃い学校が多い。ボストンの中央を貫く大通りはパリのシャンゼリゼ通りを模して造られており、通りの両側には屋根裏部屋を備えたフランス風の建物が並んでいる。また、新大陸入植やボストン茶会事件など独立戦



参加者と並んで記念撮影

争にまつわる歴史的な史跡が多いこともボストンという街の性格を物語っている。

そういう街の中で行われた授賞式は会場が古いタイプの欧州風のホテルであったこともあり、実に落ち着いた威厳のあるものであった。授賞に先立ちボストン、タフツ大学医学部の神経眼科主任であるトーマス・ヘッジス教授とダラス環境医学センターのウィリアム・レイ所長からの石川学部長の紹介と受賞を祝う言葉があり、その後総会長であるジェラルド・ロス先生から賞が贈られた。石川学部長が返礼の挨拶中に述べられた、眼科の

手術で救える患者はどんなに頑張っても一生の内
で千人単位だが、環境医学で救える患者数は万単
位あるいは十万、百万人単位の可能性がある、と
いう言葉は正に環境医学の懐の深さを物語ってい
ると言える。もちろん参加者全員の心からの賞賛
の拍手を得た。



表彰状を囲んで記念撮影
(左は石川園子夫人。後列は同行教室員)

私一人、重度の時差ボケに悩まされてしまっ
たが、心温まる授賞式に参加できたことと、帰国
のための乗機がボストン空港を離陸したときに見
えた紅葉の美しい町並みは一生忘れないと思う。



ボストン中心部の公園で



ボストン港の軍艦の前で